



保護者の感想から（一部抜粋）

男の子ですが、普段から一緒に「プリン」を作ったり、私が台所に立っていると、積極的に手伝ってくれたりしていましたが、やはり、一人で台所に立つということには、不安があったように思います。何度か練習する中で、「ここはこうすればよかった。」など次々にアイデアや工夫などが本人の口から聞くことができ、料理の一番大切なことを学ぶことができたと思います。（彼の財産になりました。）ただ、家庭科の実習が少ない中で、子ども一人での調理には少し課題もあるように思います。

最終審査へ進むとのお話をいただき、大変うれしい反面、本人には不安も大きかったようです。もともと料理することが好きな娘ですので、練習時間をたくさんとってあげることができませんでしたが、本番どうにか1時間以内に作り終えることができたので、親子共にほっとしました。今日、このような機会をいただいたことにより、娘にとって料理に対する自信が付き、何事にも前向きに頑張るようになったらよいと思っています。また、家の方でも、新しいメニューを考えて、もっともっと好きになって、将来にも役立ててくれたら嬉しいです。

夏休みの課題で、出された宿題の中で一番時間をかけて取り組んでいたのが、最終審査出場の話聞いてきた娘は、喜んでいました。同時にちゃんと作ることができるのか不安もあったようです。それからは、毎日のように作っては、兄や姉に食べてもらいアドバイスをもらったり、自分なりに早く作るコツを見つけたりと、前日までがんばっていました。ごはん作りを通して、家族みんなが関わり楽しく作ることができました。本人も「作ってもらう喜び」を感じることができたようで、今後は楽しみです。まだまだ小さいと思っていた末娘の頑張る姿に成長を感じました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

夏休みの宿題の中に料理コンテスト応募用紙が3種類ほど入っており、どれにチャレンジするかを決めるときに、「ふくしまっ子」のネーミングで決めました。風評被害がまだ残る中で、福島に住む自分達が進んで福島の食材を使っておいしく料理しようとお話ししました。また、家が農家なので、家でとれる野菜を全て食材にできたらとメニューを考えました。

休日の朝は、時々、「ぼくが朝ごはんを作ってあげる」と言って楽しそうに作ってくれます。今日のための練習も楽しそうでした。料理への興味は今だけかもしれませんが、大人になって困らないためにはよい経験だと思っています。給食で果物が皮のまま出されるようで、家でも皮付きのまま食べていましたが、先日、包丁で皮がむけないことに気が付き、これからはその練習をさせたいと思います。

普段、あまり料理に関心がない娘でしたが、今回のふくしまっ子ごはんコンテストをきっかけに親子で台所に立つことが増えました。この貴重な体験を生かして、これからも食と料理に興味をもち、親子で台所に立つ時間を大切にしていきたいと思っています。

最終審査会への出場が決まってから、毎日練習を重ねてきました。普段はあまり台所に立つことがなかったので、最初は戸惑うことが多く見られました。練習を重ねることで調理の流れをつかめるようになりました。本番では大分緊張していたようですが、最後まで調理に取り組むことができて良かったです。今回の経験を生かし、色々な事にチャレンジしてほしいと思います。

以前はあまり料理することもなかったのですが、出場に向けて大分練習をしました。今まで親子で一緒に台所に立つということも忙しいとなかなかできなかったのが、今回、参加させていただくことで、料理に対して、とても興味をもつようになり、よいきっかけとなりました。

夏休みの宿題で、お弁当を作って提出しましたが、まさか入選するとは思いませんでした。しかも、本日、来てみたら、6,037名中の9名とのことで、考えられない超難関であったことが分かりました。お弁当のレシピは肉と魚を使わず、地元産の野菜と果物を使って作りました。本人は中学3年生で入試も控えていましたが、大変名誉あることなので、弁当作りの練習をさせました。お弁当のアピールする点は、誰でもおいしく簡単に作れるということです。本日は、大変貴重な経験をすることができました。これからも料理が得意になれるように頑張らせたいと思います。

娘は小学校からバスケットに明け暮れ、最後の中体連の後は駅伝の練習を頑張っていました。どちらも県大会に進むことはできませんでした。今回、このような形で、県大会に出場させていただくことになり、驚くやら嬉しいやら。何事も、一生懸命に頑張る子なので、少し報われた気分です。県大会に出ると決まってからは、「何で私なんかが選ばれたのかな」と言いつつ、苦手な卵焼きの練習に力を入れていました。ある日の夕ごはんの時には、卵焼きが2つも3つも並び、主人もびっくりしていましたが、おいしそうに食べてくれました。

上手にできないと泣き言を言う時もありましたが、たこ飯を混ぜご飯から炊き込みご飯に替えたり、時間配分に頭を悩ませたりと横で見ていると微笑ましかったです。子どもはいつか巣立っていきます。娘の中で、「中学校の最後の夏に一緒にお弁当を作ったな。県大会にも出られて、それに向けて何回も練習したな。」と良い思い出になると嬉しいです。

最終審査への出場が決まったと聞いたときは、とても驚きました。今まであまり料理をしたことがなかったので、作る順番、切り方など、親子で話し合いながら練習しました。部活が忙しく、なかなか練習時間がとれませんでした。本人なりにがんばっていました。今回を機に、親子で台所にたつことが増えれば嬉しいです。

今回のコンテストに選ばれてから娘と何度も話し合い、練習をしてきました。なかなか忙しい時間の中で、娘とゆっくり話せる機会をもらったと思っています。ありがとうございます。娘も、最終審査に残ったことで自信につながったようです。

昨年の応募では、親子で手の込んだ弁当にしましたが、今年は全て本人に任せることにしました。これは別の意味で、親にとって根気のいる事でした。しかし、本人が、食べたい物を作っている姿勢は、今までの手伝いでは見たことのない手際の良さ、潔さでした。最終審査までは、にんじんの切り方だけは、ほぼ毎日練習しました。親子で、日々のお手伝いが大切であることを実感しました。大人になって心豊かに食生活が送れるように、この機会にレパートリーを増やしていきたいと思っています。

コンテストに応募するにあたり、娘と何度も話し合い、何を作るか、どんな食材を使うか、大変迷いました。今回の応募の際は、夏が旬の小アジを使いましたが、最終審査においては秋が旬であるさんまに変更しました。レシピ変更に当たり、色々な方の助言をいただき、今回のお弁当を作ることになりましたこと、大いに感謝しております。たくさんの方々のご協力がなければできなかったことと思います。この経験が、娘の成長の糧となってくれるのを願うばかりです。本日は、このような体験をさせていただきありがとうございました。

出場が決まってから家族みんなで喜びました。将来、食に関する仕事に就きたいと思っている娘なので、この出場のおかげで少しでも自信につながればと思っています。また、普段から料理をすることが好きな娘ですので、何度も練習を重ねてきました。これを機に自分の住んでいる西会津の美味しい食材をみなさんに知ってもらいたいと娘とも話していました。

食事作りを通し、栄養面、地域でとれる食材、食事から得られる健康な体づくりなど会話も増えとても良い経験となりました。料理への興味を更に深めることができました。

